

千葉県緑化推進委員会

赤とんぼ観察会「赤とんぼと遊ぼう」

互井賢二（市川市）

日 時：2010 年 10 月 2 日（土）10～14 時

場 所：行徳緑地特別保全地区、行徳野鳥舎・視聴覚室（市川市）

参加者：子ども 2 名 大人 18 名 計 20 名

講 師：互井賢二氏（房総蜻蛉研究所 代表）

企画・運営：千葉県自然観察指導員協議会、房総蜻蛉研究所、協力：行徳野鳥舎友の会

房総蜻蛉(とんぼ)研究所の代表から挨拶と諸注意があり、いつもは鍵が掛かって入れない行徳緑地特別保全地区に向かう。入口手前にあるサクラの樹の梢の枝先に数頭の赤とんぼが止まっているのを発見。捕獲するとナツアカネとアキアカネの♀であった。早速その違いを説明する。特別保護区に入るとすぐに干潟が一望できる所でしばしトビハゼなど見る。いつもはシオカラトンボが居たりするのだが、今年はいない。トンボが少ない感じがする。そこを後にし、奥へと通路を進む??? おかしい! 例年には必ず見られるノシメトンボなどが全く見られない。仕方なく通路を突っ切って、ビオトープ池辺りの広場で皆さんにトンボを採ってくれるようお願いし、それを材料に皆に説明する形にし、トンボ採りの自由時間とする。

早速イトトンボが採れたとのこと、見るとアオイトトンボの♀であった。このトンボは千葉県では比較的少なく(県 RDB で C ランク)、市川市では唯一確実な産地として当地があることを説明する。又、近縁種にオオアオイトトンボがいるので、その違いなど若干の説明をする。

次に、やはりイトトンボで、アオモンイトトンボの♂であった。アジアイトトンボが居るはずで、比較するとわかりやすいのだが、この日は見る事が出来なかった。アキアカネが居ない! この時期、本来なら田んぼを始め、多くの湿地でお繋がりて産卵しているはずなのに、全くその姿がない! いま全国でアキアカネの激減が言われているが、目の当たりにする現実に実感する。

ギンヤンマが飛んでいた。捕獲せんと必死に作業にかかるが、うまくタイミングが合わず、そっちへ行ったぞという声に皆網をふるが、網の間をうまくすり抜け逃げていく。さすがギンヤンマである。そう簡単に捕獲できない、だから昔から人気がある。池を回り込み、湿地に入るとようやくポツリポツリとアキアカネが居た。しかし♂が一頭止まっているだけである。ノシメトンボも同じ状態だが姿が見えた。「赤とんぼ観察会」の今までのイメージを根本から覆す状態だ。

午前中のフィールドを終え、一行は行徳野鳥舎に戻り昼食を取り、13 時から講義となった。今日見たトンボの種類を皆で確認し、改めて資料の図版からアカネ属(アカトンボ属)の区別を学習する。その中でもアキアカネの胸部の斑紋(黒条)を変異があることを図版で確認する。しかし、これで終わるとすぐに忘れていく。「忘却」のスピードの方が早い。それを考え、応用編としてインターネットで各々の種の画像を検索してプロジェクターで写し出し、生態写真とは言えない多くの画像の「限られた情報」の中で、その特徴を見出すことで「種の同定」を行う作業を皆と一緒にやる。又、多くの写真を見ることでその雰囲気を理解し「感覚的世界(見ればわかる)」まで誘うべく、脳に多くの画像を見て「焼き付け」ていった。これが重要なことで、図版の説明をいくら聞いても限界がある。それにしてもネットの中には多くの誤同定があるのも、似た種類が多い「トンボの世界」の特徴だ。アカトンボの代表格のアキアカネ・ナツアカネ、小型のマユタテアカネ・マイコアカネ・ヒメアカネ、端黒翅のノシメトンボ・コノシメトンボを行った所で、参加者から「リスアカネ」の特徴の質問があり、それも追加するサービス! ぶりであった。

14 時終了予定とのことだが、時計を見ると既に 1 時間半のオーバー、そこに質問から追加を行い、とうとう 2 時間弱オーバー、講師は午前、午後と全力投球でクタクタの状況。しかし、熱心な参加者たちは意気軒昂に帰って行った。本当にお疲れ様…でした。